課外教養プログラムプロジェクト（KYOPRO）学生スタッフの活動記録（2023.3.31 現在）

１．メンバー構成：計５２名　※2022 年度卒業生を含む

（１）キャンパス別内訳

①市ヶ谷キャンパス　２４名

②多　摩キャンパス　１５名

③小金井キャンパス　１３名

（２）学年別内訳

①1 年生　１１名（小金井１多摩４）

②2 年生　１９名（小金井４多摩３）

③3 年生　１２名（小金井４多摩７）

④4 年生　　９名（小金井４多摩１）

⑤その他　　１名

２．ミーティング：

（１）市ヶ谷キャンパス：春学期 週１回（曜日不定）／ 秋学期 週１回（曜日不定）

（２）多　摩キャンパス：春学期 週１回（曜日不定）／ 秋学期 週１回（曜日不定）

（３）小金井キャンパス：春学期 週２回（曜日不定）／ 秋学期 週２回（曜日不定）実施

※その他、全体ミーティング（３キャンパス合同）を状況に応じて対面・オンラインを使い分けて、実施した。３キャンパスの学生リーダーの会議を随時実施した。

３．実施目的：

■プロジェクト活動を通じた「ピアサポート」活動の展開

■プロジェクト活動を通じた「コミュニティ」の形成、「社会人基礎力」の養成

４．外部団体との交流：

・ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）合同企画

「はじめての点字～知ってつながる社会の輪～」

「ゼロから学ぶ LGBTQ～より良い社会を私たちがつくるために～」

・ボランティアセンターチームオレンジ学生スタッフ合同企画

「KUG で学ぶ避難所運営～あなたの知らない避難所の世界～」

５．担当職員による振り返り：

［市ヶ谷キャンパス］担当：團之原啓一

2022 年度は、1～2 年生までの新スタッフを５名迎え、総勢 24 名で新体制をスタートした。コロナ禍３年目となり、コロナ禍による規制も徐々に緩和されていく中で対面企画を重点的に行いながらもオンラインでの企画も実施した。そのような状況の中で学生スタッフたちはコロナ禍によって希薄となってしまった「学生同士の交流」を参加した学生が得られるようになる事を目標にした企画を積極的に考えるようになった１年であったと思う。

今年度、学生スタッフの発案企画では、７つの企画を実施した。2021 年度と比較すると、１つ企画数が減

ってしまったが、その分、対面での企画を重点にコロナ対策を考慮しながら、学生同士の交流をどのようにすれば盛り上げる事が出来るのかという点について工夫を行いながら企画を実施出来たと感じている。

特に、11 月に実施した「東京ジャーミイに行く！～食事・宗教・歴史などのイスラム世界を体験しよう～」は、学生スタッフがコロナ禍によって希薄となってしまった学生同士の交流をどうすれば活発に出来るかという事を一生懸命考え、試行錯誤しながら作りあげられた、2022 年度を代表する企画だと思われる。この企画はイスラムの概要や文化を学ぶ授業はあるが、イスラムの文化や歴史をムスリムの方から実際に学ぶ事ができる授業はないのではないかという学生のアイデアから企画がスタートした。実施日当日は本学でイスラム文化の授業を担当されている講師から座学としてイスラム文化や歴史の基礎についてレクチャーして頂いた後に、代々木にある日本最大のモスクの東京ジャーミイを見学しながら、ムスリムの方からイスラムの人々の生活やその文化について解説をして頂いた。見学中には滅多に見る事の出来ないイスラム式の結婚式や礼拝も見学する事ができた。そのような事から、学生は普段の授業では体験が出来ないような経験が出来たのではないかと思われる。また、本企画中にはイスラム文化に関してグループで考えたり、発表したりする時間を設けたので、学生同士の交流も活発になるような工夫も出来た。企画終了後には初対面の学生同士で東京ジャーミイのお土産コーナーで買い物をする様子や LINE で連絡先交換をする様子も見られた。

このような事から、本企画では課外教養プログラムの目的である普段の授業では学べないような内容の企画を提供するという事や企画スタッフが目標とした「学生同士の交流」をサポートするといった重要な点を完璧に網羅する事ができたのではないかと思う。今後も課外教養プログラムの目的と学生で考えた目標を達成できるような企画を積極的に実施していってほしい。

次に、2022 年度の市ヶ谷 KYOPRO スタッフの運営について、振り返りたい。2022 年度の市ヶ谷キャンパスでは、藤井リーダー、小谷副リーダー、鶴見副リーダーの３人のリーダーズを中心に運営を行った。

MTG は 2021 年度まではオンラインで行っていたが、2022 年度では原則対面での実施とし、オンラインでも参加が出来るようにハイフレックス型の MTG 形式で行った。ハイフレックス型での実施についてはスタッフ内でも賛否両論があったが、事情によって参加が出来ない学生スタッフの事も考慮された良き工夫であったと思う。そういった工夫によって対面で実施をしていたコロナ禍以前の MTG の時よりも参加をする人数は増えていたと感じている。企画に参加した学生の交流を手助けするだけでなく、KYOPRO スタッフ内での人間関係も良好なものとなるように工夫が出来ていた点は良かったのではないだろうか。

また、全体の運営としては、毎月初めに職員も交えたリーダーズ MTG を行い、市ヶ谷 KYOPRO スタッフの全体の雰囲気や各学年の様子について気付いた点や改善点等を共有し、職員からもフィードバックを行った。リーダーズ MTG では職員と学生スタッフが感じた運営における課題点について議論し、毎月の目標設定を行った。具体的には、企画や MTG で必要な資料作成や進捗報告が遅れてしまう事が多かった際は「～日前に必ず報告・連絡する」等、具体的な目標設定を行い、MTG や LINE グループで全体共有し、目標遵守を呼び掛けた。そういった取り組みを行う事で各学生スタッフは責任を持って、KYOPRO の活動に取り組む事ができていたと感じている。

このようにリーダー学生スタッフと職員、双方からの視点で KYOPRO スタッフの様子や雰囲気について意見交換を行い、MTG や企画において工夫をしながら運営を出来たという点は運営をスムーズに行う上で良かったと思う。今後も継続をしていきたい。また、リーダーズ MTG については KYOPRO スタッフの運営に興味がある下級生の参加もウェルカムなので、今後は積極的に下級生にも参加してほしい。

一方で、2022 年度の KYOPRO 運営においては、何点か課題点があった。具体的には、①MTG 出席者の固定化、②報連相が遅れる・ないという２点である。

１点目の「MTG 出席者の固定化」については事前に日程調整を行い、多くのスタッフが参加出来る日程を組んでいるのに、いざ当日になってみると参加できない学生が多くなり、結局いつも参加するメンバーしかいないという事が多く見られた。本件については、急用による欠席は仕方がないかと思うが、「何のために日程調整を行っているのか」、「急に参加が出来なくなる事で、他のスタッフ、職員にどのような影響があるのか」という点をよく考え、学生スタッフ１人１人が学生支援に携わる「学生センターの職員である」という事を意識し、行動をしてほしい。

２点目の「報連相が遅れる・ない」という点は企画運営や MTG の実施に大きく関わる問題である。報連相が

遅れてしまったり、無かったりする事で、企画の進捗が遅れたり、講師の方や教職員の仕事にも影響を及ぼしてしまう恐れがある。そういった可能性がある事を考えながら、「企画を作り上げる」という責任を持って活動に取り組んでほしい。

上記のような、課題があったものの、2022 年度は大きなトラブルは無く、市ヶ谷キャンパスでの課外教養プログラムを運営出来たと感じている。来年度は本格的にコロナ禍の規制が緩和され、コロナ禍以前の学生生活が戻ってくることが予想される。今後、今までの運営方針では学生のニーズに応える事ができないという事も多々あるかもしれない。学生スタッフならではのアイデアとニーズを敏感に察知するアンテナの高さでその時勢に即した企画を沢山提供してほしいと考えている。

［多摩キャンパス］担当：佐藤　貴広

2022 年度は、新 1～3 年生 6 名の学生スタッフが加わり、計 12 名で活動を行った。新スタッフ 6 名のうち 4 名が留学生スタッフで、幅広い視点で活動を行うことができ、8 つのプログラムを企画することができた。活動形式については、新型コロナウイルス感染症の活動制限も緩和されたため、オンラインと対面のハイブリッド形式で活動を行うことができた。

春学期は、「KYOPRO でスタッフ一人一人の個性を見せられるような環境にする」という目標を立てた。対面での活動が増えたこともあり、新規スタッフが企画班の中心になるなど、馴染みやすい環境であったと感じた。学生スタッフの目標振り返りでも、のびのびと活動することができたという意見が多く、このような環境にすることができたので新規スタッフも増えたのだと思う。

また、春学期は 2 つのプログラムを実施することができた。特に、「DIALOG・IN・THE・DARK～暗闇から生まれる数々の発見を求めて～」では、多摩キャンパスでは 5 年ぶりの外出企画を実施した。多摩 KYOPRO としては、外出企画を経験している学生スタッフ・職員がいなかったが、事前に講師と詳細な点まで決めることができたので、当日はスムーズに実施することができた。また、学生スタッフと参加者間でもグループワーク以外に会話を楽しむ様子が見られ、KYOPRO の Vision である「第三のコミュニティの場」を実現できたのではないかと思われる。

秋学期は、「自分だけでなく全体にも目を向け、みんなで助け合いながら KYOPRO 運営をできるようにする」という目標を立てた。どのプログラムでも新規スタッフが企画班に入ったが、企画に慣れていない新規スタッフが多い中でも、既存スタッフが積極的にサポートを行うことができていた。プログラム以外でも、多摩祭や新歓準備など、忙しいスタッフを支えて活動する姿をみることができた。今後も、学生スタッフ内で忙しい人がいる時は、積極的にサポートをしていってほしい。

また、秋学期は 6 つのプログラムを実施した。秋学期すぐの 9 月 26 日に開催した「日本社会で成功するための IT」は、7 月 11 日にオンライン上で実施する予定だったが、回線トラブルにより延期となっていた。回線トラブルで開催できなかったということもあり、9 月 26 日に行われたプログラムは対面形式で実施した。その際、KYOPRO では初めてとなるオンデマンド配信にも挑戦し、参加者は対面・オンデマンド配信合わせて 81 名と大盛況となった。学生スタッフから、参加学生の為にオンデマンド配信をしたいという希望があり、企画班で協力して達成することができた。その後も、「生態系を脅かすインフラ開発！？～私たちの暮らしの裏で何が起きているのか～」でもオンデマンド配信を実施し、参加者数を伸ばすことができたとともに、オンデマンド配信のノウハウを KYOPRO 内で共有することができたと思われる。

春季休業期間中は 2 つのプログラムを実施した。5 年ぶりに実施した星空観望プログラムは、春休み期間にも関わらず 50 名の申込みがある大人気企画だった。本プログラムは、当日の天候によってプログラムの内容が変わるということで、事前の打ち合わせを詳細に行った。残念ながら、当日は雨天となったが、担当スタッフの事前準備と冷静な対応により、実際には星空をみることができないながらも満足度の高いプログラムを実施することができた。

最後に、2022 年度の年度目標として、「出来る限りジャンルを分けた企画を最低 6 つは実施する」と掲げていたが、多摩キャンパスでのアロマや星空について学ぶプログラムだけでなく、外出した体験型プログラム、オンデ

マンドで実施した IT や生態系のプログラムなど、幅広いジャンルのプログラムを８つ実施することができた。学生スタッフが常に年度目標を意識して活動できた結果だと思われる。また、学生スタッフが「参加学生にとって良いプログラムとは何か」ということを考えて、オンデマンド配信を実施するなどの行動に起こすことができ、「チャレンジ」の一年間だったと思われる。オンデマンド配信によって、参加者数を昨年の 3 倍以上とすることができ、KYOPRO の認知度を上げることにも繋がった。今後も、学生スタッフには、「参加学生にとって良いプログラムとは何か」ということを引き続き考えて、プログラム作りを行ってほしい。

［小金井キャンパス］担当：菅野　渉

2022 年度の KYOPRO は、新型コロナウイルス禍の中、新たに４名のスタッフを加え 13 名で活動を行い、「１つでも多くの対面プログラムを開催する」ことを目標に掲げたが、春学期は１プログラム、秋学期に１プログラムと計２プログラムの実施にとどまった。

２プログラムの実施となってしまった原因であるが、「ミーティング時の集まりの悪さ」と「進捗状況を確認する術が確立されていなかったこと」が挙げられる。

ミーティングに関しては、学生スタッフの参加者しやすさを考え、年度初めは平日昼休み２回の開催を行ったが、授業等の関係でミーティング時間がかなり短くなってしまうことが多く、毎回消化不良感で終わってしまうことが多かった。

進捗状況に関しては毎回のミーティングで「何をして次いつまでに何をする」という報告が欲しかったところではあるが、「理系学生の授業コマの多さ」とオンライン授業であるが故に増えてしまった「レポート課題の多さ」に学生スタッフが忙殺されてしまい「進捗は特にありません」という報告が毎回のように続いてしまった。

気づき・成長を与えるために「本来はこのような形で報告してほしい」と伝えてはいるのであるが、学生の本分は学問であるため、授業関連の勉強を理由にされてしまうと強く言えない場面が多々あった。

次年度は各々の「スケジュール管理」と「To Do や行うべきタスクの意識づけ」を徹底して指導していきたい。

また、小金井での開催形式は対面とオンラインを併用した「ハイブリッド形式」を採用したが、この形式も学生の成長を妨げる要因の一つとなったと思われる。

家等から遠隔でも参加可能なオンラインを活用することで参加率の向上を狙ったが、「対面で来なくて良い」ことを理由に各々予定を入れてしまい、結果として一部のスタッフを除き参加率が下がってしまう結果となった。

この状況を打開すべく、各キャンパスの開催形式をヒアリングし、一部の学生から反対意見は出たものの、次年度の４月以降は 2019 年度以前のような完全対面に戻す方向性となった。しかし、オンラインの弊害である「参加はするが発言しなくても良い」という風潮がまだ残っているため、現役の学生スタッフにはより積極的な参画をしてもらいたい。

このコロナ禍で新入生勧誘も新歓祭への参加は行っているが成果はあまり出ておらず（3 月末現在で 1 年生は 1 名のみの加入）、4 月の新歓では新入生だけではなく新 2 年生の加入もしてもらえるような勧誘活動をスタッフ達には行ってもらいたい。

今年度は対面企画の実施は実現したが、現役学生スタッフの引継ぎ及び成長については次年度も引き続き幹部の学生スタッフ達と話し合い検討する方向である。今年度以上のプログラム数を実施するためにスタッフの意識を改革させるべく、対面での個別打ち合わせ等の頻度を今より上げていきたい。

引き続き学生スタッフ自身の達成感と成長を促せるように日々の活動をサポートしていきたい。

2022 年度プログラム実施一覧

	実施日	プログラム	申込者数	参加者数	留学生数
実施プログラム（春学期）	4.11（月）	●多摩キャンパスツアー	2	2	2
	6.1（水）	●コミュカアップ！春から始める雑談講座	22	13	0
	6.6（月）	●世界遺産の価値を未来へ！～知られざる世界遺産のお話～	21	14	0
	6.8（水）	●能楽鑑賞教室（事前学習）	14	7	1
	6.9（木）	●多目的室利用講習会①	-	20	0
	6.13（月）	●多目的室利用講習会②	-	29	0
	6.15（水）	●バッグにファッションにインテリアに…なんでも風呂敷にお任せ！	4	8	0
	6.17（金）	●はじめての点字 ～知ってつながる社会の輪～	22	21	0
	6.18（土）	●歌舞伎鑑賞教室（観劇）	27	26	4
	6.18（土）	●DIALOG・IN・THE・DARK～暗闇から生まれる数々の発見を求めて～	18	17	0
	6.20（月）	●ミュージカル鑑賞教室～「劇団四季」を見に行こう～（事前学習）	52	23	2
	6.21（火）	●ミュージカル鑑賞教室～「劇団四季」を見に行こう～（観劇）	52	39	2
	6.22（水）	●能楽鑑賞教室（鑑賞）	14	14	2
	6.23（木）	●オレンジホール利用講習会①	-	25	0
	6.27（月）	●オレンジホール利用講習会②	-	15	0
	7.5（火）	●三曲体験教室	14	12	2
実施プログラム（秋学期）	9.26（月）	●日本社会で成功するためのIT	81	79	0
	10.3（月）	●過去の富士山噴火から見る　私達の防災	13	12	0
	11.12（土）	●東京ジャーミイに行く！～食事・宗教・歴史などのイスラム世界を体験しよう～（講義・訪問）	25	25	1
	11.15（火）	●国ごとに違う！？デザインから学ぶユーロの秘密	9	9	2
	11.18（金）	●危険ドラッグの恐ろしさ～薬物乱用防止セミナー～	145	145	0
	11.22（火）	●心と体に働きかけるアロマテラピー	16	15	2
	11.25（金）	●「書道入門教室～明日から字を書くのがちょっとだけ楽しくなる～」	12	12	4
	12.5（月）	●KUG で学ぶ避難所運営～あなたの知らない避難所の世界～	5	8	0
	12.7（水）	●生態系を脅かすインフラ開発！？～私たちの暮らしの裏で何が起きているのか～	48	47	0
	12.8（木）	●ゼロから学ぶ LGBTQ～より良い社会を私たちがつくるために～	5	10	0
	12.22（木）	●君にはまだ無駄遣いがあるかもしれない！～ファイナンシャルリテラシーを学ぼう～	4	7	0
	2.24（金）	●星空観察ー多摩キャンパスの冬の星空ー	50	25	7
	3.6（月）	●日常で使える脳科学 ～人生を成功に導く脳の鍛え方～	35	28	4

29 プログラムに、約 730 名参加

＊上記は学生スタッフが企画・実施したプログラムだけでなく、既存プログラムなど学生センターが実施したプログラムを含む。